

令和3年度 第1回 長野市災害復興計画検討委員会

日 時：令和3年5月25日（火）午前10時から午前11時45分

場 所：第二庁舎10階 講堂

出席者：委 員 長野市災害復興計画検討委員会委員名簿のとおり

（北村委員代理として長野市商工会議所徳武事務局長出席）

（工藤委員代理として長野市商工会浅岡事務局長出席）

事務局 池田総務部長、西澤企画政策部長、清水財政部長、宮岡地域・市民生活部長、中澤保健福祉部長、日台こども未来部長、伊熊環境部長、下平商工観光部長、小林文化スポーツ振興部長、櫻井農林部長、小林建設部長、岩片都市整備部長、樋口教育次長（行政担当）、町田上下水道局長、佐伯消防局長、柄澤頭司議会事務局長、村上総務部危機管理防災監、中村総務部公有財産活用局長、小池企画政策部復興局長、復興推進課職員

1 開 会

2 委員委嘱

3 新任委員等紹介

4 委員長挨拶

5 議 事

【事務局】

長野市災害復興計画の進捗状況報告（令和2年度）について 別紙資料説明

<質問・意見>

<委 員>

スライド24の防災・減災のための情報伝達手段「デジタル化整備事業」で、本年9月完了予定とあって今の進捗率が74.6%となっている。スピーカーの絵があり、音達距離が300mから600mになるとなっているが、デジタル化に伴ってこのようなスピーカーになるのでしょうか。

<村上危機管理防災監>

デジタル化に伴い電波が変わることによって高機能のスピーカに代えることができるようになっていきます。

<委員>

私の自宅の前にスピーカーがあり、4月に工事が終わっており箱が付いているが、アナログ送信機となっている。全部のスピーカーがデジタル化になるのか確認したい。

<村上危機管理防災監>

すべて変わる予定であるが、場所により進捗に差があるため確認させていただきたい。

<委員長>

場所によってとのことなので、一覧か場所か、ぱっと見てどこまでがデジタル化になっているのかわかるようになると、自分のところはどうなっているんだろうということがわかるので、できるのならよろしくお願いします。

<委員>

スライド7の立ヶ花の関係で、今後の河川整備でもここがポイントになるかと思いますが、どの程度の掘削や広げることができるのか、最終的にはどのようになるのでしょうか。千曲川の流れがここで抑えられているのですが、ここが本流と同じような形に広げられていくのか、それとその効果についてお聞きしたい。それからスライド9の岡田川について、ここもいつも危ないということを知っているのですが、護岸の復旧だけで大丈夫なのかどうか、随時、掘削等やっているかと思うのですが、整備状況等についてお聞きしたい。

<齋藤千曲川河川事務所長>

スライド7の立ヶ花狭窄部の河道掘削でございますが、上下流バランスを考慮し、STEP1からSTEP5の順に掘削を行っていきます。スライド7の断面図に記載のとおり、掘削する範囲は各断面毎に少し変わりますが、この青く着色している川の中の河岸部分を掘削します。この立ヶ花狭窄部の河道掘削と併せまして、遊水地や犀川上流の大町ダム等の再編事業なども含め、河川の水位を下げるということを実施し、令和9年度までに令和元年東日本台風台風規模の洪水に対して、堤防から洪水が溢れないように整備を実施していきます。信濃川は非常に長い川であります。信濃川流域全体での上下流バランスや氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、整備を進めてまいります。

<吉川長野建設事務所長>

スライド9の写真については、被災した部分の復旧が終わっているという紹介の写真でございます、岡田川ではそれ以外に河川の改修事業をやっております。また、千曲川との合流点のところに湛水防除のための排水機場を造ろうという計画もございます。

<委員>

立ヶ花については相当の掘削の量になろうかと思うのですが、この青い部分だけで百年に一度、千年に一度の洪水に対応できるということによろしいのでしょうか。

<齋藤千曲川河川事務所長>

令和元年東日本台風台風規模の洪水に対して、堤防から洪水が溢れないように河道掘削等の整備を実施し、河川水位を下げるということです。

<委員長>

このSTEP1のちょっと離れたところ、新幹線に近いところで、川岸にくっついていないのでお金かかってダメかもしれませんが、水位が下がると見えてくる中洲がありまして、その中洲も掘削の対象になるのでしょうか。

<齋藤千曲川河川事務所長>

スライド7には、立ヶ花の狭窄部の掘削ということで実施していくものを示しています。その他にも堆積している箇所など調査した上で、必要に応じて河道掘削は実施していきます。新幹線の上流側周辺は、砂利採集事業者にもご協力頂きながら、河道掘削を実施していきたいと思っております。

<委員長>

新幹線の下流はどうですか。

<齋藤千曲川河川事務所長>

新幹線の下流についてもSTEP1での河道掘削の際に、現地状況を確認しながら、対応していきます。

<委員>

スライド5と6、国の関係の堤防強化の工事の関係で側面、法面等強化していただいております。また、45cmの嵩上げもしていただきました。ここ

の軻良根古のところは千曲川上流、南から直角に東に行くので、今回も越水して軻良根古の側のところがえぐれて非常に心配をしたところですが、この強化が実って今後は越水やら崩壊しないようになろうかと思えます。またついこの間、塩崎関係で救命ゴムボートを設置していただいております。それで、スライド9の岡田川について、先ほど回答いただきましたが、この岡田川の上流の方の五明地区、昨年はコロナで中止しましたが、今回6月6日、それから8月の第一日曜日の年2回、五明区150人程が、朝、約2km程割り振って清掃、土手草取りが中心ですが実施する予定になっております。また葦が相当はえているので昨年お願いしたところですし、具体的には杉の子保育園から下流100mくらいのところにある柳の木が2～3本非常に大きくなっていて、大雨が降るとそこでせき止められるような感じで、あふれ出すようなこともあったわけですが、何とか取り除いてもらえればありがたいなと思っております。県の方で昨年見ていただいたと思えますがいかがでしょうか。

<吉川長野建設事務所長>

岡田川に堆積している土砂や河川内の草木の伐採も建設事務所でございます。今年度からは、この岡田川に限らず河川内の支障となっている土砂や草木撤去の予算をだいたいいただいておりますので、その中でやっていきたいと思えます。今お話のあった場所について、まだ現場を見ておりませんので、見させていただいてやっていきたいと思えますのでよろしくお願ひします。

<委 員>

スライド27被災者のこころと体のケアのところ、私たちが身近にいろいろな人とお話ししている中で感じていることをちょっとお伺いしたいと思えます。今、普通の人でもコロナでなかなか自粛でお家にいる人がどんどんフレイルという虚弱になりつつある人たちが増えているのですが、コロナ禍で保健師さんたちが訪問してくださっているような講義をしてくださっていると思えますが、私の友人で生活支援をやっている彼女がこういう状況でなかなか訪問ができないと悩んでいます。なかなか訪問できないことは仕方ないのですが、その人たちとつながった後どうやってやっていけばいいかと悩んでいて、たまたま話し合いしている中で、役割は訪問だけなのと聞くと、そうじゃないんだよ人間的につながってきた人たちを自分としてどうしていいかわからないというふうに悩んでいて、自分がもしコロナを持っていて人の家に行ったらどうしようとか、自分もうつされたらどうしようとかそういう不安と、何とか訪問した先に元気づけてあげたいという思いとのジレンマで支援している彼女の方が悩んでいるというところがあるので、この辺の保健師さんとの連携とか市の関係の連携とか、コロナでどういう風に今進んでいるのかなというのをこの数字とかグラフで見ているのですが、そういうことを一番懸念する私たちが普通の生活ができる

ということが一番大事なことなので、そういうところを復興というその立場からどのようにとらえていけばいいのかなということをお聞きしたいと思います。

<中澤保健福祉部長>

ご友人の方もそうなのですがスライド26のところに生活支援・地域ささえあいセンターの紹介があります。今23名の方が仮設やアパート等へ訪問していただいております。当然その中で様々な相談を受けるかと思っております。訪問が中心ですがやはりコロナの波の状況で電話で相談したり、電話を受けたりということもあるかと思っておりますが、なかなか複雑ないろんな相談をお受けしますので、その受けた相談をその場で正確に返せるということが難しいと思っておりますので、福祉政策課にも専任の職員もおり、そこから受けた相談をいろいろな課、関係機関にかなりつないでおります。例えば高齢者であれば地域包括支援センターや介護事務所、こどもや子育ての悩みなどがあればそういった支援機関、就労の機関にもつながりますし、地域の実情に明るい民生委員・児童委員にもつないでいたり、場合によっては心の悩みということになれば精神科医の方にもつなげるというような、そういったマンパワーを借りながら世帯丸ごとの問題を抱えてそういった機関につないでいくということになります。中にはその機関が適切でない場合もあるのですが、そういったことも微調整をしながらその人にあった機関と連携して支援していくということになります。コロナの心配ということでございましたが、ちょうど月曜日から基礎疾患の方の本格接種が始まりまっておりますし、集団接種も先週の金曜日から受付を開始しておりますし、もうかなりの予約をいただいております。高齢者に関しましては長野市は7月30日までに90%という目標を掲げておりますし、その後、64歳以下の方も進めておりまして11月末を目途にほぼ全員の接種を終えるというような気持でやっております。欧米等でもコロナのワクチンの効果がかなりでておりまして、アメリカではもうマスクをしていないような状況もあるのですが、日本はそこまで行っておりませんので基本的には感染対策をしっかりしつつ、被災者に寄り添っていくということと、保健師もそういった方々と連携していきますが、なかなか専門職の方一人で解決できない場合には多職種へも相談して総合的に対策していきたいと思っております。

<委員>

ありがとうございました。高齢者は不安ばかりで、コロナの事もそうですがすべてが不安で、こういう住宅の所に支援員が行くというのはとてもありがたいことですし、繋がりを深めていくということ、もう一つは支援員が足りているのかな、増やすことはないのかなということもありますが、これからよろしく願いいたします。

<委員>

スライド23の災害公営住宅について、そもそもの考え方についてお聞きしたいのですが、災害とあるので災害にあった人だけ、また、豊野地区にあるので従前ここにあった公営住宅に住んでいた方に限定されているのでしょうかというのが1点目の質問です。

<小林建設部長>

豊野地区だけでなく長野市内で被災された方であればどなたでも入居していただける前提で進めております。

<委員>

2点目ですが、73戸整備戸数となっております、5戸不足した分は別の所に確保済みとなっておりますが、そもそも73戸という戸数を決めたときには、土地の広さなどの条件もありますが、もともとそこに住んでいた方の分を確保することを考慮して決めたものなのか、それともいろいろなことを考えて決めているのか、後は辞退数が結構あるかと思いますが、これを決めたプロセス、抽選だとかそういったことなのか、個別に細かい事情を聞いてなのか、また条件が厳しくて辞退したようなことがないのかお聞きしたい。

<小林建設部長>

戸数については当初プロポーザル方式で事業者に手を挙げてもらい提案いただいたもので、当初は63戸でありましたが、それをこの敷地の中で選定した事業者と検討する中で73戸まで建てられるということで73戸となっております。また、辞退されている方の数につきましては、例えば東口の栗田の従前住宅を被災者の方にご紹介する中でそちらに入っていたりとか、災害公営住宅は3年後から高額所得者の方は家賃が相当上がるということもあって、辞退された方の中にはそういうことをご紹介する中で、他の民間賃貸や現在のみなし仮設住宅に継続してお住まいになることにした方もおります。また、この災害公営住宅にも入れますが他の住宅もどうかとご案内した中で、そちらを選んでいただいたというような方もおり、市としては、できるだけ寄り添った中で対応していると考えておりますのでよろしく願いいたします。

<委員>

防災減災体制の強化ということで伺います。古里住自協では令和2年度の事業として古里版安心安全防災マップを平成25年度版の改訂版として作成しました。各区の危険箇所や避難経路などの表示なども各区ごとに作成しまして、マップに挟み込みできる方式ということで、地域の事情に合致するように工夫いたしました。今後につい

てでございますが防災マップの作成で大事なことはその後の活用でございます。住民の皆さんに危険度を認識して早めの避難につなげられるよう地区と一緒に防災の強化を図っていききたいと、その具体策が必要になるのではないかと思います。避難所の課題について信毎の記事でございますが、長野市の試算では千年に一度の水害では19万4千人の避難者となり、そのうち収容できるのは25%、密を回避となると12%という試算で、不足は明らかであります。また、最近避難情報も変更されまして、避難勧告がなくなり避難指示に一本化されたという報道もありました。一本化されたことでさらに避難所が足りなくなるのではないかと思います。危機管理防災課では指定避難場所を大幅に増やすことは困難であるとの認識を示されておりますが、親戚や知人宅への拡散避難の検討を市民に呼び掛けるとのお考えとのことですが、すでに呼び掛けているかとも思いますが、さらにもっと早く広く、強く市民に呼び掛けていただくことが必要ではないかと思います、現状どのような対応となっているのかお聞きしたい。

<村上危機管理防災監>

金子委員のお話のとおり法律が改正されまして避難情報については2段階だったものが一本化が行われ、いきなり避難指示が発令されるということになります。逃げ遅れをいかになくすかということを経験した結果として法改正が行われたということでございますので、これをいかに市民の皆様にも周知徹底させていくかということが、我々に課せられている大きなテーマだと思います。すでにホームページ等では周知しておりますが、広報ながの等も活用して周知徹底を図ってまいりたいと思っておりますし、改めて支所、住民自治協議会の皆様にもご理解、アドバイス等いただければと思っております、さらに周知徹底をしてまいりたいと思っております。いかに早く逃げてくださいかということ、裏腹に避難所が非常に重い課題でございます。イメージ的に公共施設が避難所ということでございますが、公共施設には限りがございますし、今後公共施設を増やしていくことはできないという状況でございますので、いかに分散避難ということでも市民一人一人が安全を確保していただけるかということもそれぞれ考えていただくことが必要かと考えております。そういったところを重ね合わせて、避難情報の変更に合わせて分散避難を広げていくことを呼び掛けていくことも必要だと考えておりますので、皆様のご協力をいただければと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

<委 員>

水害の場合には時間的な余裕があるのですが地震の場合には一気にきますので避難所や分散避難も非常に難しい状況になるかと思っておりますので今後ご検討いただきたいと思っております。

<委員>

千曲川、浅川の改修・復旧ですが、特に千曲川を積極的に進めていただきありがとうございます。また、今後の状況もぜひよろしくお願いたします。まず浅川の問題について県と市の考えをお聞きしたいと思います。浅川については原形復旧が主になります。浚渫をしていただいて河床を下げてはいただいたのですが、今までの建設事務所、河川課の説明では、豊野地区においては床下浸水はあっても床上浸水はないからいいんだと、そんなふうを受け止められるような説明が今までであったわけがございます。浅川の流域の関係を含めて改修を今後どんなふうにお考えか、また市としても、長野市民が今でさえ非常に不安である中でどのようにお考えかお聞きしたい。

<吉川長野建設事務所長>

浅川の復旧の今後の在り方でございますが、被災したところは災害復旧事業として終わっております。千曲川の水位が上がった時、内水対策が課題となっております、過去から浅川の内水対策計画というのを作ってまいりまして、その中で対策の柱としてまず排水機場ポンプの増強、それから堤防の嵩上げ、二線堤の整備などの対策をしまして、床上浸水を防止しようという計画で事業を進めております。ポンプを先行する中でまだ7tほど足りないということで、現在7tのポンプを設置する工事、それから地域の皆様のご了解を得たうえで堤防の嵩上げをして床上浸水を防止しようという計画で、それを進めてまいります。また、河川管理者と地域の皆様が一緒になって流域対策をやっていくという、昔から総合治水という言い方で長野市と協力してやってきております。今、流域治水という言い方をしておりますが、雨水が川に入る前になんとか対策するということでため池を活用したり地下貯留を推進したりというもの、それからいざ溢れたときに逃げ遅れゼロという部分で避難対策をするために情報共有をしっかりとするというのを改めてやっていきたいと考えております。

<小林建設部長>

県では説明のとおり3点セットで内水対策を進めております。長野市といたしましては、市長が会長を務めております浅川改修期成同盟会がございます。その中で、委員がおっしゃった床上浸水だけでなく床下浸水の被害の軽減にも努めていきたいという中で、県に要望活動をしております。スライド14をご覧いただきたいと思いますが、現在、浅川排水機場が14tのものがまだ稼働できないという状況で、昨年からは森林農地整備課と河川課で協力して、このため池18カ所約489,000t水をためて流水抑制をしていくという対策をしております。浅川ダムの貯水容量の110万tという中で、このため池だけで約4割くらいの貯留能力がございます。当面はまた農業関係者と協議しながらできるだけため池の貯留を流出抑制として今後も継続

して維持していけるよう関係者と詰めていきたいと思っております。また、流域治水の考え方に基づきまして市でもできるだけ雨水調整池とかそのような施設を今後も整備していきたいと考えておりますし、地域の住民の皆様の声をできるだけ届けていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

< 委 員 >

今月21日の雨でさえ、30mm、40mm降っただけでも排水できるかできないくらいにいっぱいになってきてまして、千曲川の水が流れてはいるのですがただ上がっているだけで2日間も流れる状態にない7m低い浅川であります。今でも住民が家を建てればいいのかどうか本当に悩んでおります。昨年の7月8日でさえあと30cmで越水だった。余裕高だけでもっていたという話を浅川改良事務所に確認して聞きました。余裕高だけで持っていたにもかかわらず避難命令も出なかった。非常に不安で皆さんが浅川に出て非常に心配そうに眺めていたにも関わらず、そんな情報もなかった。千曲川の問題だけではない、千曲川がいっぱいにならなくても浅川が溢れてしまう、こういう状況の中で、昨年もそういう状況を把握されているのかということでもあります。今年も雨で不安な状況になっているわけです。吉川所長のお話のパラペットでの嵩上げというのは長沼地区の方の嵩上げでありまして、豊野地区の嵩上げはないわけです。我々はその辺のところ、不安の解消のために、今の現状や昨年の例もありますし、平成16年も18年もハイウォーター越えています。そんな状況の中で本当に浅川の河川改修を考えなくていいのか。それができないとすれば、浅川全体で調整池を作るとか、ため池もいいですがそれだけではなくて他に地区を守るような浅川総合治水対策、流域対策を長野市と県で考えてもらいたいということで、もう一度お考えをお聞きしたい。

< 吉川長野建設事務所長 >

浅川の問題は先ほど申した通り、千曲川と浅川の堤防差があるということで、千曲川の水位があがりますと浅川に逆流が始まります。その逆流した水が浅川の堤防から溢れないように樋門で逆流防止をします。その時に浅川の水がはけるところがないのでポンプアップすることが基本だと思います。その時に浅川に負荷をかけないように流域で水をためるといのが流域治水の考え方です。浅川の堤防と千曲川の堤防が同じでない以上はどうしても内水氾濫というリスクが残ります。今の計画ですとその水をすべてドライにするという計画はとても無理なものですからどこかで溢れる前提で物事を考えなければいけないとしたときにどうするかというと、まずは宅地を守りましょうという計画を立てて、それに従って進めてきているところです。ため池やグラウンドあるいは建物に貯留タンクをつけるなど総力戦で物事を考えていかないと宅地部を守ることができないと思うので、そういったことを地域の皆様と市と一

緒になっていろいろなメニューを考えて、それに向かって努力をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

<小林建設部長>

長野市も吉川長野建設所長が言ったとおりの考え方であります。ただ、地元の皆様からかなりの遊水地とかそういったご要望もいただいております。そうしたものを要望する中で県に改めて検討をお願いすることと、右岸と左岸をパラペットで同じものを作って欲しいということで、県にそうした条件の中で内水氾濫することのシミュレーションをしてもらっています。近日中に豊野の皆様のところにお示しする予定と聞いておりますので、そうした地域の皆様の声を県に伝える中で、いろいろな洪水対策でどのようなものが考えられるのか、市としては県にお願いしていきたいと思っております。

<委員>

前向きな考えをお聞き出来てうれしく思います。流域全体でまた考えるような方向で市が積極的に進めていただくことをお願いします。

<委員長>

善財委員の質問に関連して、ハードで何とかしようとするのがひとつ、それから去年の段階でハイウォーター越えていて余裕高だけでもっていたという状況というのは、まだ災害になる前の情報ですが国・県からいろんな情報が来て、それらを総合化して判断して伝達するかと思いますが、例えば危機管理防災課から情報発信するのか建設部なのか、その情報伝達についてどうやって情報を得て判断して発信するのかという体制の整備や連携はどうなっているのか説明していただければありがたい。

<村上危機管理防災監>

避難情報につきましては市長が発令するわけですが、実務的には危機管理防災課で、河川の水位の情報や气象台と連携して気象情報をいただいて今後の雨の状況等を把握した上でいろいろなところと調整しながら最終的に避難を呼びかけるのか判断、決断をしていかなければなりません。レベル3の段階、今までは避難準備の段階で、高齢者の避難情報の発令がございます。法改正で避難準備は紛らわしいということで言葉はなくなりまして高齢者等避難ということで、避難勧告の前の段階、危険が迫っている段階で避難情報を発令していくということになりますので、躊躇なくそういった発令についてはしていかなければならないと思っておりますが、その前に気象情報とか河川の水位等の情報については逐一危機管理防災課から流すということはしておりませんし、難しいと思っておりますので、我々とすれば、危機が迫った場合については情報を周知していきますが、その前の段階の気象情報、河川の情報に

については、気象庁などいろいろなところのホームページでリアルタイムで確認いただけるかたちになっていますので、地域の皆様にはここを見ればこんな情報が見れるということも周知を図りながら呼び掛けていきたいなと思っております。さきほど善財委員から危ない状況にもかかわらず避難情報がでなかったという話をいただきましたが、それについては過去の状況を確認して、もし、避難情報を出す状況であったにもかかわらずということであれば反省して見逃すことのないようにしていかなければならないと思います。

<委員長>

なかなか特殊な状況、千曲川の水位や浅川の状況など細かい話になってギリギリの所での話かと思いますので、その辺特殊事情はあるけれども、スマホで調べてみろというだけのやり方だけではないというやり方も考えて総合治水というところへ繋げていっていただければいいかなと思いますのでよろしくお願いします。

<委員>

私も商工会議所は、商工会も同様ですが、台風水害の特別相談窓口を設置して地域の小規模事業者の支援に努めてまいりました。スライド34にありますますが市の商工労働課に協力する形で調査を行いましてこういう数字が載っております。長野市以外の支援策の活用状況について少しお話させてもらおうと思いますが、国のグループ補助金につきましては商工会議所では長野北部グループ、篠ノ井グループ、松代グループの3つのグループで69の事業所が加入していただいて支援を進めてまいりました。商工会でも豊野グループを創成されました。その他北部工業団地は団地だけのグループ、あと木材関係などいろいろなグループがございまして、これが令和2年度で終わったという形になっております。それで、このグループ補助金に参加しない小規模事業者、これは従業員20人以下ですが、こちらは主に、この台風型の持続化補助金を申請したわけですが、これについては商工会議所、商工会が窓口となって123社の利用、このうち商工会議所で107社の申請のお手伝いを行いました。これは最大200万ということでこちらを利用する事業者が多かったということでございます。最後にグループ補助金につきましては国の規定で5年間、グループに参加した企業の皆さんにPCPのセミナーとか、そういったことをすることになっていて、昨年セミナーを行ったわけですが、5年間継続して行っていくことになりますので、住民自治協議会の役員の皆さんはじめ、ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

<委員>

スライド37の被災農地のマッチングでは農業委員会も最優先の課題として取り組んでおりますが、農業を取り巻く環境、担い手とか含めて非常に厳しい状況であ

ることはご理解をいただけるかと思います。それでも6割はなんとか相手を見つけて、工作を続けてもらおうという状況になってきてますけれども、これはあくまで堤内だけです。堤外についてはここには出ておりません。堤外も地区によっては結構面積ありますし、まだ手が付けられていないところも見られることも事実です。これも耕作者がいるいないという状況があるわけですので、地域全体で一体で取り組んでいかなければ解決できないことだと私なりに理解しております。本日、それぞれの地域から住民自治協議会なり区長会のトップの皆さん方にご参加いただいておりますので、ぜひ地域の中の問題のように、農地利用の最適化推進委員をご活用いただきましてこの解消に努めていただくようよろしくお願いします。

<委員>

今の話に関連しまして、おかげで若穂綿内地区も長野市の事業により復旧が進んで、先日、加藤市長がおいでになりまして復旧状況を見ていただいたという状況であります。ただ、まだ一部耕作者がいない土地、荒廃地になっている土地も一部ございまして、それについては借り手を見つけながら復旧するという状況になっておりますが、先般、長野市の中でも災害復旧の事業として補助金が出るという話を聞いたのですが、河川敷の中は白地だからダメだという回答がきたのですが、その点について何か特例というか、うまい形で対応できないかどうか質問させていただきます。

<櫻井農林部長>

ただ今お話のあった事業は、今年度、制度化した被災地区の荒廃農地利活用補助金でございます。被災した荒廃地の復旧に当たりましては補助率2分の1もしくは10aあたり最大10万円の補助となっております。また復元した農地につきましては作物の種の分類に対しましても補助を行うという制度でございます。今回新たに作ったものでございますが、いわゆる青地というものを対象としております。堤外地すべてが農用地区域であるとか、また農用地区域でないということでもなく、堤外地でも青地がある所はございますし、白地しかない所もございます。今回、とりあえずは青地、農用地区域ということでターゲットとさせていただきます。今後の申請状況等もみながら白地に拡大していく余地があるのかどうか、当然財政的な負担が生じることにもなりますので、そちらにつきましては検討させていただきたいと思っております。

<委員>

できれば現場を見ていただきまして、耕作者を探しつつあるという状況で農業振興に取り組んでおりますので、全体の予算の中でできれば対応して頂ければありがたいと思います。もう一つはせっかく復興した農地で採れます農産物の販売関係を考えておりまして、農家の皆さんも消費者のみなさんもお互い復興した農地の物を販売した

い、購入したい、また地域を元気にケアしたいと、企画しております。その一つとして直売の青空市を企画しておりますが、これに対するいろんなPR関係あるいは販売対策、商品開発含めた長野市としての対策があるのかお聞きしたい。

<櫻井農林部長>

被災地区の商品に限定した販売対策等については制度的には用意してございません。しかしながら従前より6次産業化だったり直売所の設置等に対する補助等もございまして、既存事業で活用できるものがあれば大いに活用いただきたいというふうには考えております。

<委員>

具体的に中身についてももう少し見させてもらって、できれば併せてですね、地元の皆さんに元気になってもらう、また、県内外からお客さんに来ていただいて消費して買っていただくと、またその所が来年御開帳の駐車場の予定になっておりますので来年に向けて今年の春から企画を組みながら、市・県の補助事業があればPRしていきたいと思っておりますので、ぜひ相談に乗っていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

<委員>

この1年、2年ずっとこうやって一緒にやってきながら思ったことをちょっと述べさせてもらいたいと思います。松代で災害の話をしたとします。そうすると千曲川が、水が流れなくなったら水門を閉めざるを得ない。水門を閉めたら後は溢れるだけ、内水氾濫。これ仕方ないんだよ、としかいいようがないんですよね。私が何かできるかと言ったら何もできないんです、よく考えたら。あと逃げろって言っても、本人にしたらそこに今まで培ってきた財産が残っているわけです。というふうになると、今回、初めて千曲川の所で立ヶ花削りましようという話がでてきました。ぜひ、千曲川の水がいつでも流れているようにしていただきたいというのが一点目。2点目、県の方でどうしても掘削してもらわないと断面が狭くなってしまう。たまる量がないと溢れる量が多くなる。溢れないようにするには断面を昔のまま作った時の状態を保っていて欲しいと思います。それで県から何を言われるかという、千曲川の水位が上がってきたら掘ったらそこに溜まるだけじゃないの、掘削したって駄目じゃないのと、支川の方は言われてしまう。そうすると松代のように急なところからきて扇状地の先の方になると平らになりますから溜まるんです。溜まったものは取らなきゃ断面確保できないと思うのですが、素人の考えなんでしょうか。そこのところが姿が現れてくれないといつになっても心配は心配でずっとつづくことになるのだなと思いました。この委員会が始まった時に真っ先に絵に描いた餅にだけはしたくないと言わせても

らったので、それが最後まで残っている。これが例えば、またしばらく災害がなくて行ってしまうと、またそれが元に戻ったまんまで手つかずにずっとになってしまうというのを繰り返しているような気がします。これからもぜひ千曲川河川事務所も長野県側も予算が取れるように努力していただいて、なんとか水が流れる千曲川を作ってもらいたいし、県の方にも申し訳ないのだけれど地域のところの状況を見ていただいてそれに応じた形でやっていただけたらありがたい、そうなってくると地域みんなの心も洪水になっちゃいけないから頑張ろうというところでまとまっていけるのかなと改めて感じた1年、2年だったかなと思います。

<委 員>

ひとつだけこれからのことをお願いしたいのですが、スライド24の情報無線がデジタル化され今年の9月に完備されるとのことで、19号の時にはまったく聞こえなかったのですが、デジタル化で距離が延びるのは、このスピーカーが四方に向いているから600mに延びるのか、それともデジタル化することによって音質がクリアになったために延びるようになったのか、あとお願いですが、台風や大雨の時は全く聞こえなかったのには、音でかき消されたという教訓があるのですが、その雨風の音に対しての音の届きとかそのあたりは実証されているのでしょうか。されてなければ、どこかのタイミングで抜き打ち的に試験電波でも流してもらえば住民も安心できるかなと思っておりますのでよろしくをお願いします。

<村上危機管理防災監>

こまかい技術的なところはお答えできなくて申し訳ないのですが、デジタル化によってスピーカーの機能が向上して距離が長くなるということでございますが、それで長野市全域がクリアに聞こえるようになるのかというと、方向性とかスピーカー同士の干渉などで9月ですぐOKにはなりません。完全ということにはなりませんので、あらかじめそれを前提にできる限り音が届くように事業者と工事を進めている状況です。スピーカーからの音についてはご指摘のとおり風雨の関係や住宅の気密性とかで聞こえないということも起こりえるということになりますので、スライド24の長野市防災ナビがございまして同報無線で流れた音がよく聞こえなかった場合には、すぐ音声で再生できる、またすべてではありませんが流れた放送を文字で読み取れるという機能も設けておりますので、ぜひこういったものを皆さん全員のスマートフォンにダウンロードしていただいて活用いただけるように周知を図っていきたいと思います。

<委 員>

1点だけ確認させてください。スライド24の整備予定基数494基というのは

長野市に今あるすべてをデジタル化するということがよろしいでしょうか。ならない所があるようなら、さっき地域によってはとも聞こえたのでそのあたり確認したい。

<村上危機管理防災監>

基本的にはすべてデジタル化の電波に代わるので工事をやらなければならないことになっていますので、アナログの基地局が残ることはないはずでございます。場所によって9月まで進捗に差がありますので、進んでいるところと進んでいないところと現状ありますので、9月末までには100%工事が完了するように目指してやっていますが、この辺りはどうかという確認は今できませんので、後程確認してまたご報告させていただければと思っております。

<委員長>

今日の委員会はこれで終わりですが、各地区で抱えている問題、細部にわたりいろいろあるかと思しますので、スタッフなど市の方も少し変わりましたがけれども、これまで以上に太いパイプをつないでいただいて、防災等に役立てていただければと思います。

6 その他

長野市災害復興計画検討委員会の次回日程について（令和3年12月頃）